



平成 22 年 4 月 8 日

各 位

会社名 古河スカイ株式会社
代表者 代表取締役 吉原 正照
(コード番号：5741 東証第一部)
問合せ先 広報・IR 室長 上田 滋
(TEL. 03-5295-3800)

新中期経営計画について

当社グループは、中長期的な経営ビジョンとその達成に向け、2012 年度を最終年度とする新中期経営計画を策定しましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2012 中期経営計画 基本方針と中長期経営ビジョン

一昨年末からの景気後退により、2009 年度のアルミ圧延品国内需要は、ここ 20 年来の最低水準となり、足元、最悪期は脱した感があるものの、今後の需要動向は決して楽観できない状況です。

この厳しい状況に的確に対処するため、当社グループではさまざまな収益改善活動とともに、板圧延事業の構造改革や子会社の再編などグループ一丸での体質強化に着手しております。

同時に、中国をはじめとするアジアや欧州など、伸びるグローバルマーケットへの対応に積極的に取り組み、収益力の向上に邁進しています。

これら大きな事業環境の変化に対応し、このたび当社グループは、新たな飛躍を目指すことを目的に、2012 年度を最終年度とした新中期経営計画を策定しました。その基本方針は以下のとおりです。

業容拡大に向けた事業基盤の強化と新たな飛躍への第一歩

- (1) 国内事業：既存事業の構造改革の推進、事業基盤の強化
- (2) 海外事業：成長する海外市場への的確な対応
- (3) 新規製品：成長製品、次世代製品への事業対応

本中期経営計画を着実に実行し、さらにその先の将来ありたい姿として、収益力・財務体質・技術力・人材力のいずれにおいても、

アジアNo. 1の魅力あるカンパニー

となることを中長期の経営ビジョンとし、経営基盤、事業規模のさらなる強化、拡大に取り組んでまいります。

2. 新中期経営計画の概要

上記の基本方針に従い、以下の戦略を推進してまいります。

(1) 国内事業戦略

①事業構造改革の推進

【板圧延、箔事業】

- ・日光工場上流工程（鋳造～冷延）の休止、構造改革
- ・カラーアルミ事業の構造改革（深谷工場への生産移管、古河カラーアルミ（株）生産規模縮小）
- ・日本製箔（株）完全子会社化の効果顕現

【押出事業】

- ・最適生産体制の検討、製品セグメントの見直し
- ・アライアンスを含む抜本的収益向上策の検討

②事業基盤の強化

- ・日光工場上流工程休止に伴う福井・深谷工場間の最適な生産集約の実施
- ・省人化、合理化投資の優先と、設備投資の厳選による財務体質の強化
- ・国内生産拠点の徹底したコスト・品質競争力の強化

(2) グローバル事業戦略

【板圧延事業】

- ・自動車熱交換器材、印刷板等の既存海外投資拠点の強化
中国、欧州 ⇒ 生産能力の増強と生産品種拡大
タイ ⇒ スリッター事業進出
- ・グローバル缶材市場（アジア・中国）でのコスト競争力向上

【押出・加工品事業】

- ・自動車熱交換器材、既存拠点の生産量、品種拡大
インドネシア ⇒ 生産品種拡大のための設備増強
中国 ⇒ ローカルメーカーへの拡販強化、ハイエンドからミドル市場への拡販
- ・電子部品加工等、グローバルニッチ対応の強化

【鋳鍛事業】

- ・自動車ターボチャージャー用コンプレッサーホイール 世界No.1シェアの地位確立
ベトナム ⇒ ベトナム中心の生産体制強化、競合品への対抗策強化

【営業体制】

- ・現地営業拠点設置、整備
中国、欧州 ⇒ 営業拠点設置によるマーケット対応強化と販売体制の確立

(3) 新製品開発戦略

- ・環境、エネルギー、IT（リサイクル・軽量化、クリーン、高機能・高効率）をキーワードに自動車分野、電池分野、太陽光発電分野において次世代製品開発を推進

3. 数値目標（連結）

（単位：千トン・億円）

	2009年度見通し	2012年度計画	増減（12対09）
売上数量（単体）	386	447	+61
売上高	1,830	2,200	+370
営業利益	1	150	+149
当期純利益	△40	90	+130
営業利益率	0.1%	6.8%	+6.7
有利子負債	730	570	△160
自己資本比率	27%	35%	+8
D/Eレシオ	1.3	0.8	△0.5

以上